

# 『マスケティア 届く！？』

作：珠希 けい

—7月7日。

—パターン。

ポルトス「アトス！ アラムス！ 届いたぞー！」

アラムス「ポルトス、相変わらず騒々しいね。」

ポルトス「アトスは？」

アラムス「ああ、ロシュフォール先生に呼ばれて出て行ったよ。」

ポルトス「ああ、そうか！  
これの支払いをしに行ったんだな？ へへっ。」

アラムス「……で、何が届いたの？」

ポルトス「じゃじゃーん！  
『ム、ムスケ……』」

アラムス「『マスケティア』だね。  
自分で発注したなら『Musketeer』くらい  
読めるようにした方がいいよ？」

ポルトス「……んだよ！ 今、そう言おうと思ってたんだよ！  
ほら、見てみる。このゲーム。  
オレが出てるんだぞ！」

—ガサゴソ。

アラムス「出てるって……  
どこに？」

ポルトス「ジャケットをしてみるよ！  
これ、オレだろ？ どう見てもさ！」



アラムス「ああ……」

ポルトス「な？ な？」

アラムス「ああ、なんて美しい人なんだろう……  
って思ったら、この金髪でセクシーな瞳は僕だね。  
見惚れてしまったよ。」

ポルトス「お前もちゃっかり出てたのか！？」

アラムス「ちゃっかり出たのはきみの方だと思うよ？」

ポルトス「はん！ 勝手に言ってる。  
オレがメインヒーローと知って驚くなよ。  
へっへーんだ。」

アラムス「……なるほどね。  
自分がメインヒーローかと思って、こんな大量に発注したんだね。」

アラムス「(この僕がメインなのにさ)」

ポルトス「オレの勇姿をいろんな奴に見てもらいたくて  
こーんなに取り寄せたんだぞ！」

—ガサゴソ。

アラムス「へえ。限定版まで……」

ポルトス「故郷の父ちゃんや姉ちゃんにも送るんだ！  
みんな喜んでくれるだろうな～！  
サインの練習もしておかないとな。」

アラムス「いいね。  
サインなら字が汚くてもバレにくい。」



ポルトス「なあ。コレ、どんな話なんだろうな。  
このジャケットからすると……」

アラミス「アトスも許可を出したくらいだから、  
剣と勇気と友情を学ぶ教養モノなんじゃない？」

アラミス「(本当のテーマは違うけど)」

ポルトス「おおお！ 剣と勇気かあ。  
……じゃあ、こんな感じか？

城を乗取る悪者に立ち向かって行く銃士隊！  
アトスとアラミスがもうダメだって倒れた時にオレが登場だ！  
オレ一人でも戦ってやるってジャンと敵陣に乗り込むと、  
メインヒーローのオレはやたら強い！  
強すぎる！  
悪い奴等を次々と剣でやっつけて  
城とそこの民を助けるって話。どうだ？」

アラミス「そうだね。  
そして城から出てきた姫が僕に抱きつく。  
『ありがとうございます、アラミス様』とね。」

ポルトス「なんでお前とくつつくんだよ！  
オレが助けたんだぞ！  
お前はアトスの下敷きになって寝てる！」

アラミス「姫は僕がいいって言うからさ。」

ポルトス「言うか！」

アラミス「あれ？ きみって女の子あんまり得意じゃないよね？」

ポルトス「得意じゃねえけど……！  
って言うか、その……なんだ……」

アラミス「じゃあ僕は、僕を待つ女の子のところに行くね。  
あ、この限定版、一本もらおうよ。」

ポルトス「あ、おい、待て！  
お前のサインも入れておけよ！  
父ちゃんに送るんだから！」

——バタバタ……！ バタン。



——シーン……

——バタン。

ロシュフォール「……………」

——カツ、カツ、カツ。

ロシュフォール「……これか。  
ゲームソフトとは……」

——カサゴソ。

ロシュフォール「リシュリュ様にお見せしなくては。  
……一本もらうぞ。」

——カツ、カツ、カツ。

ロシュフォール「……ん？  
『マスケティア』……  
私も出ていたのか……」

おわり。

